

PNLSC ニュース 56号



特定非営利活動法人 フィリピン日系人リーガルサポートセンター (Philippine Nikkei-jin Legal Support Center 略称 PNLSC) ※当センターは、フィリピン残留日本人の身元捜し、国籍確認、在日日系人支援等を目的として、2003年11月、弁護士、市民、企業によって設立されました。



岸本へネロサヤス子さんと仲地リカルドさん、 沖縄で父の足跡をたどる旅 9/26-30



弁護士 村上 貴洋

仲地リカルドさん(83)と岸本へネロサヤス子(80)さんの一時帰国に伴い、平成29年9月26日から沖縄に行っていました。

同日、那覇空港でお二人の到着を報道陣と共に今か今かと待ちわびていたのですが、お二人の出迎えは、とても対照的でした。仲地さんが大勢の親族に囲まれて、ここが似ている、あそこが似ていると、お互いに確かめ合っているのに対し、岸本さんは、私が花束を贈るだけでした。

二人の就籍は、似ているところが多くありました。二人とも沖縄出身で、沖縄に多い名字であり、PNLSCが必死で集めてきた証拠も揃っていて、日本人の子であることは誰の目にも明らか、ゆえに、わずか1か月程度で就籍が認められています。ところが、就籍後の報道による呼び掛けに対し、仲地さんは親族が名乗り出てくれたのに対し、岸本さんはありませんでした。記者会見の会場では、仲地さんの親族対面を岸本さんが寂しそうに見ていたのを、私は目で追っていました。

2日目、仲地さんと岸本さんは、別行動をとりました。私は、気になっていた岸本さんとはなく、仲地さんと行動をとりました。

仲地さんのご親族は、フィリピンから一緒に来た3人のお子さんも、それを出迎えた大勢の沖縄の仲地家の人々も、とても温かい人達でした。仲地家の墓をお参りし、ご先祖様にご報告を済ませた後、仲地家の実家を訪問したのですが、仲地家総出で出迎えてくれました。真夏のように暑い日でした。狭い部屋の中は、仲地家の人々で、それ以上に暑い空間でした。夕方、家を出てホテルに戻るときに、仲地

さんの長男が「温かい」と英語で私に言ったのを覚えていました。その1日で、仲地家は、お互いの溝を埋め、完全な家族になっていました。

その夜、仲地さんと岸本さんは、名護の沖縄料理のお店で合流し、食事をしました。そこで、岸本さんは、昼間、ハワイに移住した「いとこ」(父の弟の子)と電話で話をしたとき聞きました。お父さんの弟が戦前ハワイに移住した記録がみつきり、名護市や関係者のご尽力で、なんとか連絡がついて、この一時帰国に間に合ったのです。それだけではありませんでした。その「いとこ」から、送られてきた叔父(父の弟)の写真その席で初めて目にし、自分に目鼻立ち・口元がとてもよく似ていると、感激していました。それから、岸本さんは、父がよく歌っていたと、その店にあったピアノの伴奏で「うーさぎ、うさぎ、何見て跳ねる」と日本の歌を歌っていました。

私が同行したのは、2日目までです。次の日、私は東京に戻りましたが、改めて思ったことは、この感動を、フィリピンで待っている多くの2世に味合わせたいということです。残された時間は多くありません。その中で引き続きできる限りのことをしていきたいと思います。



お迎えできて本当によかった！

仲地 宗和さん

8月1日の沖縄タイムス紙に「情報求む」という記事を見たとき、リカルドさんの顔写真とお父さんのお名前から、これは自分たちの親戚かもしれない、と直感しました。それから、家系図や古い書類などを探し出しての確認作業が始まりました。PNLSCの高野さんと何度もやりとりし、フィリピンに移民した祖父の弟が、フィリピンで亡くなったというリカルドさんのお父さんであるとの確信、仲地家親族でお迎えすることを決めました。

空港で初対面したときは感無量、血のつながりとは不思議なもので、私とリカルドさんは、顔や歩き方まで似ていると言われました。仲地家のお墓にお連れしたとき、自宅で祖父母の写真を见てもらったとき、大変感激されていた様子でした。長い間求めていたことだったのででしょう。私たちとしても、本当によかった、沖縄へ来てくれてありがとう、と



いう気持ちでいっぱいになりました。

その後、「合図森」という岬にお連れしました。戦前、本部町から海外に船で出稼ぎに行く人が多くいて、船で旅立っていく子を親が、草を焼いて煙をたき、見送りの目印としたといわれる岬です。リカルドさんは、お父さんもそこから旅立っていったのかなあ、など感じていたようでした。

到着の日から4日間、ほとんどつきっきりで行動をともにしました。言葉こそ通じませんが、私たちの思いは、リカルドさんに届いたのかなあ、と思っています。

リカルドさんたちのフィリピンへ戻る航空便が、6時間遅れになったとあとから聞きました。ご高齢なので健康状態が心配です。

リカルドさんの住むパラワン島コロソ町の写真を見せてもらい、今や親戚中で「是非フィリピンに行ってみよう！」と盛り上がっています。今からリカルドさんと再会するのが楽しみです。この度は有難うございました。

※写真右: 仲地リカルドさん 左: 仲地宗和さん

◆仲地リカルドさん (83)

父の故郷を訪れることができ、また父の親戚に家族の一員として受け入れてもらえて、私は本当に幸せです。父の祖国は美しく素晴らしいところでした。祖父母の写真を見ることができたことも、大変嬉しかったです。

◆岸本ヘネロサヤス子さん (80)



日本の皆さまこんにちは。父の国、日本を訪れることが実現しようとは思ってもみませんでした。実際に訪れてみて、父の国は美しく、日本の方々

は皆、とても思いやりがあり礼儀正しく、一緒にいて心地よい、素晴らしい人たちでした。訪れた場所、料理、どれもすばらしかったのですが、とりわけ、ハワイにいる父の親戚とコンタクトできたことは、言葉にできないほどの幸せです。想像以上のことが起こりました。PNLSCスタッフ、村上弁護士、日本財団、名護市長、沖縄の翁長県知事、皆さまに心から感謝申し上げます。

ヘネロサヤス子さんに寄り添って 名護市長訪問とハワイのいとこの対話

PNLSC事務局 高野敏子

今回一時帰国した2名のうち、岸本ヘネロサヤス子さんに同行しました。もうお一方の仲地リカルドさんと違って、ヘネロサヤス子さんはメディア等で何度情報提供を呼びかける報道をしてもらっても、親族の名乗り出はありませんでした。父の出身地である名護市の市報に掲載されても、です。

そんな状況の中、稲嶺進名護市長への表敬訪問が実現しました。温かく待ち受けていただき、通訳を挟んでの労りのお言葉、高齢者だから、というだけでなく、ヘネロサヤス子さんのお母さんや、ご家族に対するご苦労も含めたお言葉をいただきました。



別れ時には名護市の T シャツ、帽子、名護市の地図、等々のお土産までいただき、沖縄に親族がみつからなくても、心の満足たっぷりの表敬訪問となりました。

その後、別室にて、帰国直前に判明した在ハワイのいとこ(96歳)と話すことが叶いました。時差の関係から、先方へ連絡しておき、いとこさんも高齢のため、娘を介添えとして待っていてくれました。今回初めてお互いの存在を知ったいとこ同士の会話は、英語で40分間に及びました。

涙を流しながら、お互いの両親の話をし、双方の国を行き来するかの如く、誘い合う会話は、私たち調査するものにとって、アメリカ、フィリピン、日本、と三国間の人の交流の歴史を感じる、感慨深いものになりました。

ルーツをたどる沖縄での5日間

初日は記者会見と夕食の後、空港近くのホテルに宿泊しました。

2日目、一行はバスで名護市に移動。リカルドさんはご親族の住む本部町で仲地家のお墓参りと本家訪問、ご親族との交流と、お父さんの故郷を堪能しました。

他方、岸本さんは、名護市役所を表敬訪問、その模様は前記報告の通りです。午後は、お父さんの卒業した市立名護小学校を訪問しました。同小100周年記念誌の明治35年卒業の名簿に父・岸本伊祐の名前が見つかったため、渡久地義幸校長より、学校の歴史について説明いただきました。



夕方、2チームは再び合流、市営市場内にある居酒屋「蓬莱」にて、リカルドさんとヘネロサヤス子さんの歓迎会が開かれました。



名護市の稲嶺市長にもご参加いただき、「岸本さんの沖縄のご親族はまだ見つ

かっていませんが、あきらめず頑張りましょう」との温かい言葉をかけていただきました。また、名護市職員や地元の方に三線の演奏をご披露いただき、父の故郷、沖縄の文化に触れることができました。

少し疲れの見えるヤス子さんでしたが、ハワイから届いた父の弟である伊昌(イショウ)さんの写真や、岸本さんのいとこにあたる伊昌さんの子供たちの写真を見せられると「父に似ている！」と笑顔をみせ、「父が一番好きだった」という“志那の夜”の歌を披露しました。親族と対面した仲地さんにくらべ寂しげだった岸本さんでしたが、100年以上の歴史がある「蓬莱」の店内を眺め、「父が語っていたとおりの、日本の家の様子です」と喜んでいました。

3日目は沖縄観光の日。午前中は美ら海水族館、午後にはハンセン病の療養施設「愛楽園」を訪問しました。愛楽園ではハンセン病に対する差別と偏見の歴史について学びました。リカルドさんの長女マリア・バージニアさんは、フィリピンでハンセン病患者が隔離された歴史を持つクリオン島で町長を務めており、過去の差別の状況がフィリピンと大変似ていると語っていました。ハンセン病患者は家族も差別されたこと、そのため家族はハンセン病について隠して生きていたことなどを説明されると「日本人 2世も同じような状況だった」と興味深げに聞いていました。その後は近くの古宇利島で飲食店を営むリカルドさんご親族のお店に立ち寄り、再び親族のおもてなしをいただき、交流を深めました。

4日目は沖縄県庁で翁長雄志知事および県会議員を表敬訪問しました。本部町からリカルドさんの親族も駆けつけてくださいました。議会開会中の審議中にも関わらず、予定より早く会場に現れた知事は、帰国者たちと親族を温かく迎えてくれました。

日本財団の樺沢一朗常務理事からリカルドさん、ヤス子さんの紹介があった後に、リカルドさんが「日本人として受け入れてくれてありがとう」、ヤス子さんが「幼いころに父から聞いた父の故郷をこの目で見

ることができ、本当に幸せです」と挨拶しました。リカルドさんの娘バージニアさんは「日本の親族に会えて、フィリピンの家族はもちろん、父はとても喜んでいて。父はいつも、『自分は日本人の子だ』と書いていた・・・」と涙ながらに語りました。翁長知事は「戦前に沖縄から多くの方がフィリピンへ渡航し、戦中には大変な苦勞をしたと聞いています。これからも親族の方々と仲良く交流をしてください」と話されました。沢山の報道陣と応接室の雰囲気には、はじめは緊張を隠せない2世と家族でしたが、知事の気さくな雰囲気には安心し、最後に皆で写真撮影をしました。



午後は平和祈念館、ひめゆりの塔などを訪問しました。

5日最終日は皆で首里城観光を楽しみました。午後、那覇国際空港へ。空港には仲地さん親族も見送りにかけつけ、名残りを惜しみながら、リカルドさんの住むパラワン訪問の約束していました。岸本



さんからは、「沖縄では親族に会えなかったけれどここまで調べてくれて感謝しています。また沖縄に来たいです！」と話していました。(田近陽子)

↑首里城にて。中央が仲地さんと岸本さん
←県庁にて。右から3番目翁長知事、左が仲地さん、右が岸本さん

命のつながりを確認した故郷訪問

PNLSC事務局長 猪俣 典弘

一時帰国を果たしたお二人にフィリピンで初めてお会いしたのは、仲地リカルドさんが2014年、岸本ヤスコさんは2016年でした。太平洋戦争中に父を殺害されたり、日本へ強制送還され父を失うなど、理不尽に引き裂かれた家族、そして戦後も「敵国の子」と蔑まれながらも生きてきた境遇を知りました。戦争に飲み込まれ、地べたを這いつくばって生きてきたお二人の夢だった父の故郷沖縄の訪問、そして親族対面、命のつながりの確認が実現しました。

不安と喜びのなかで訪れた沖縄で、彼らをお迎えしてくれたのは、沖縄の親族、そして地元の人たちでした。沖縄の人たちが味わった戦争の悲惨さ、残酷さが、フィリピン残留2世の方々のおかれてきた境遇へ共感と理解の背景にあると感じます。沖縄県知事、県議会、名護市長室、ご親族、関係者の皆様のおかげさまで、残留2世お二人の70年来の願いが実現し、とても素晴らしい笑顔でフィリピンへ帰国

されました。今後の沖縄とフィリピンの親族が更に絆を深めていかれることが楽しみです。

今回の一時帰国については、フィリピンでの事前取材を含め「琉球放送」で計4回、NHK「おはよう日本」、NHKBS1「国際報道2017」、琉球朝日放送 Q プラス、NHK ラジオなどで報道、特集されました。事務局にDVDがありますので、観たい方はご連絡ください。



到着日の那覇市内での夕食会。後列右から2番目が岸本さん
その隣が仲地さん。付添の3世と仲地家ご親族の皆さんと。

難航する身元捜し 戦争の過酷な歴史が影響

PNLSC 事務局 田近 陽子

私が仲地リカルドさん、岸本へネロサヤス子さんの就籍許可申立の準備を始めたのが、ちょうど去年の今頃でした。どちらも身元未判明のケースでしたが、調査を始めて間もなく、リカルドさんは両親の婚姻記録が、ヤス子さんは父の捕虜記録が見つかりました。この調子でいけば身元も判明するのでは、などと気楽に考えていました。特に岸本さんについては、フィリピンで捕虜になった記録に父の日本の連絡先まで記載されており、その後の調査ではフィリピンから日本に引揚後上陸した記録まで出てきたので、見つからないはずがないと考えていました。しかし、弁護士が名護市役所に戸籍請求した結果は「戸籍なし」の回答。その後も公開史料での調査を重ね、明治時代にヤス子さんの祖父が署名した砂糖税減税の嘆願書まで出てきましたが、身元はわかりませんでした。

さらに名護市史誌編纂室より、ヤス子さんの叔父



の妻のハワイへの渡航記録が見つかったと聞き、名護市役所からの紹介でハワイの沖縄県人会とも連絡が取れ、ヤス子さんのいとこまで見つかったにも関わらず、日本の親戚については「誰も聞いていない、戦後に家族が沖縄まで訪ねて行ったが、何もわからなかった」との回答でした。こんなにも「伊祐」さんの情報があふれているのに、伊祐さんの身元にはたどり着けない。これも、沖縄での戦争がいかに激しかったかを物語っていると思います。

名護から那覇へ向かうバスの中、ヤス子さんは「父の故郷は父の話していた通りで、海が近くて、丘に向かって家が建っていて、私たちが暮らすバシラン島ととても似ていた。私は生きていたから、それを確認することが出来た。戦前の日本人学校の同級生で日本軍と行動をともにした人たちは、みんな死んでしまった。戦後も、母はいつも『戦争さえなければ良かったのに』と話していた。色々辛いことはあったけれど、今、父の故郷で父の話してくれたことを確認出来て、私はもう一度父に会えたような気がする」と話していました。ヤス子さんの滞在中も、沖縄のメディアで身元情報を求める報道が流れましたが、現在も沖縄の親族にはたどり着いていません。ヤス子さんに朗報を伝えられるよう、引き続き頑張りたいと思います。

つらい記憶から紡ぎ出される歴史

PNLSC インターン・ポア ユーユ

岸本ヤス子さんと仲地リカルドさんの沖縄一時帰国に同行しました。2日目はヤス子さんについていきました。その日にヤス子さんから日本人学校に通っていたときにお箸の使い方などを習ったという話を聞き、何回も「シナの夜」の歌を歌い、お父さんの大好きな歌をこれまで鮮明に覚えていることにとっても驚きました。また、戦中と戦後で強いられたつらい生活についても抵抗なく語ってくれ、ヤス子さんは非常に心の強い人だと感じました。

ヤス子さんの様々な話から、記憶はとても貴重なものだと感じました。自分の思い出は自分のものと狭く考えがちなのですが、ヤス子さんやリカルド



さんの親族探しは、本人の記憶だけでなく、親族をはじめ多くの方々の記憶や話をもとに、これまでの成果をあげられたように、個人の思い出は他人にも役立つものだわかりました。つらい思い出をしたときにそれを忘れたいと思いがちですが、視点を広げて考えると、それは歴史を修正しようとすると同じで、軽々につらい思い出を忘れると、コミュニティーの間のつながりの一つが消える、という取り戻せない状況になるかもしれないと痛感しました。

世界や国の歴史は学校で学び、歴史を知ること、今日の世界の成り立ちを理解するのに重要だと理解していましたが、自分の家族の歴史も、自分のアイデンティティ、そして世界や国というスケールよりも自分により近いコミュニティーを理解するのに重要だと、今回の一時帰国を機に、思うようになりました。

就籍プロジェクト NEWS 許可者203人に！

前号ニュースに同封した「号外」でお知らせした通り、7月26日、赤嶺オーロラハルコさんの就籍許可決定が、フィリピン残留日本人での就籍許可者200人目となりました！ 2004年から就籍という方法による日本国籍回復(家裁の許可審判を得て新たに戸籍を作る)事業をスタートして13年！ここまで成果を挙げることができたのも、弁護団、日本財団、PNLSC会員、フィリピン日系人会連合会及び各支部の役員及びスタッフの協働のご尽力、ご支援の賜物です。

急遽、7月27日午後、日本財団ロビーで記者会見を開きました。200人という数字をどうみるか、との記者からの質問に、弁護団の大岩直子弁護士は、「証拠主義の壁がある裁判所を相手に200人も許可をとれたことはすごいこと。まだ多くの方が国籍回復を希望されているので、今後も尽力したい」と答えていました。

この喜びを分かちあい、今後のエネルギーを得るため、来月マニラにて、祝賀会を兼ねた第10回日系人大会が予定しています。参加希望の方は、事務局までご連絡ください。

◆11月4日(土) 2時～(受附1:30～)

◆パンパシフィックホテル(マニラ市マラテ)にて

◆会費 1500 ペソ

8月9日には、若泉デンソンウタロさん、小山マルガリタヒロコさん、植田イサベルさんにも許可があり、就籍許可者は10月11日現在203人となりました。

許可になった方からのメッセージ

◆赤嶺オーロラハルコ(78歳 マニラ市在住)



私に日本国籍が認められたこと、そして私の家族、とりわけ私の孫たちに日本に暮らし、日本で働くチャンスを与えてくださったことに、神に感謝します。私

をいつも導いてくれた両親の魂にも感謝します。PNLSC スタッフのエミーさん、マリーさん、猪俣事務

局長、日野慎司弁護士はじめとする弁護団の先生方のおかげで日本人と認められることができました。本当にありがとうございます！（那覇家庭裁判所で許可）

◆小山マルガリタヒロコ(76歳 デイゴス市在住)就



籍許可—それは長い間の私の夢でした。その祈りが聞き遂げられました。そのためにご尽力くださった皆さまに心から感謝申し上げます。神様、日比のスタッフ

の皆さん、私のケースを担当し日系人としての人生を享受するチャンスを与えてくださった三島慶太郎弁護士、岡山家庭裁判所倉敷支部の裁判官。皆さまのおかげで、私の娘のみならず、孫たちまでが日本に暮らし、働くことができるようになったのです。私は今76歳ですが、欠けていたものが満たされた思いを感じ、また日本人と認められたことで家族によりよい生活を遺すことができる達成感を感じています。本当にありがとうございます。私たち家族にとって最高のクリスマスプレゼントです。(岡山家庭裁判所 倉敷支部で許可)

◆岸本ヘネロサヤス子さん(80歳 バシラン市在住)



PNLSC スタッフの皆さん、村上貴洋弁護士、私のためにご尽力くださったことに心から感謝を申し上げます。2017年6月9日、私の就籍申立てが許可されました。

日本人になりたい、という私の夢が叶いました。喜びであふれる心が神様への感謝となり、私のこの運命を父が喜んでいてくれる、と自信を持って言えます。私を支援してくださった皆様本当にありがとうございます。PNLSC 事務局にさらなる祝福とお力が与えられますようお祈ります。(那覇家庭裁判所で許可)

2世の方の訃報に接することが多くなりました。残された時間は限られています。一人でも多くの2世の就籍による日本国籍回復、また亡くなられた2世の方の戸籍登載による国籍回復に、尽力してまいりますので、引き続き、ご注目ください。

PNLSCでのインターンを通じ、歴史を学ぶ重要性を再認識

PNLSC インターン ポア ユーユ-(Phua Yu Yu)

9月からPNLSCでインターンを始めたポア ユーユと申します。出身はマレーシアで、現在東京大学工学部の3年生です。

PNLSCは工学の分野とは全く関係がないのですが、アジアからの留学生のインターンシップ受け入れを支援しているアジア・コミュニティ・トラスト事務局 (ACT)からPNLSCを紹介していただき、興味がわきました。ホームページを見たところ、PNLSCはフィリピン残留日系人の就籍支援をしていることがわかりましたが、残留日系人とはなにか、就籍とはなにか、など、知らないことばかりでした。しかし、なんとなく国籍問題と移民問題について取り組んでいると理解しました。学校の授業で、ロビンギャの国籍問題も取り上げられたことがあり、また、私の先祖も中国からマレーシアへの移民ですので、漠然とですが、フィリピン日系人の国籍問題についてもっと学びたいと思い、インターンを申し込みました。

まだ数日間のインターンしか経験していませんが、学ぶこと、考えることが多くありました。就籍申立の書類準備をするなかで、出生証明書、親の婚姻証明書、申立人の婚姻証明書、さらには引揚者名簿、俘虜銘々票など、様々な書類が世の中に存在するとわかりました。書類提出が要求される時、よく、面倒だと思っていましたが、結局、自分の存在、自分のアイデンティティを証明するのは書類であることを改めて実感しました。書類を大切に保管する重要性を感じ、自分だけでなく、家族の書類がどこにあるのか、実家に帰ったときに両親に聞き、自分の目で確かめたいと思いました。

マレーシアは第二次世界大戦に巻き込まれましたが、歴史の教科書には戦争のことが数ページし

か載っておらず、戦争についてあまり知りませんでした。インターンで新聞記事の翻訳をした際、正確に訳さないといけないことをきっかけ

に、太平洋戦争に関与した様々なプレーヤーについて調べ、知識を増やすことができました。

また、フィリピン残留日系人2世の陳述書を読んで、戦中に誰が何をした、というような事実についての知識以外に、戦中に生きていた人々がどのような生活を送ったかについても、知ることができました。戦前に、日本人の父親がフィリピンへと出稼ぎに行き、戦中は日本軍と行動するようになり、ゲリラから拷問を受けたり、強制送還され家族と離れ離れとなったり、戦中に亡くなったりして、1世の移民は戦前、戦中、戦後と、大変だと感じました。また、戦中にはまだ幼かった2世も、日本人であるゆえに反日感情のまだ強い戦後のフィリピンで、自分のアイデンティティを隠しながらの生活を強いられていたことを知り、心が痛むと同時に、厳しい環境に生きながら今の戦後の平和な世界を築いてくれた残留日系人2世のような人々に、感謝の気持ちがいっぱいになりました。そして、フィリピン残留日系人の身元捜しや国籍の回復を全力で支援しようと決意しました。

このような学びの経験を通して、歴史を理解することは現在の世界の成り立ちを理解するのに不可欠だと感じ、理系バカにならないよう、もっと歴史を知る必要があると実感しました。



PNLSC活動報告♪

(17.7.21-17.10.10)

- 7/26 赤嶺オーロラハルコさん就籍許可(那覇家裁)。就籍により国籍回復した2世が200人に！
- 7/27 「比残留日本人2世国籍回復者が200人に」記者会見@日本財団ロビー
来所: NHK 報道番組センターチーフディレクター安部康之氏
- 7/28- 猪俣/高野 沖縄出張(~31)
- 7/31 那覇県庁にて記者レク
四谷事務所来所: 国際開発ジャーナル中坪氏
- 8/2 来所: (株)ゼンショーホールディングスフェアトレード部 森野祥希
- 8/9 猪俣フィリピン出張(~16日)
- 8/15 フィリピン、カリラヤの戦没者慰霊祭出席(猪俣)
- 8/17 来所: 2世太田ミズエさん夫婦
- 8/22 3世・梁田ミランダさん、メルリーさん戸籍登載許可
- 8/23 海外日系人協会と打ち合わせ(猪俣)
- 8/24-29 高野、沖縄出張
- 8/30 来所: (株)北陽・小田切氏と関口氏(入会)
- 8/29 来所: NHK 安部氏
- 8/31 外交史料館調査(田近)
- 9/6 来所: 馬場行政書士
- 9/12-16 猪俣フィリピン出張(マニラ、パラワン、ダバオ。琉球放送取材同行)
- 9/13 来所: 3世・梁田ミランダさん 朝日新聞・大久保真紀記者
- 9/19 来所: SOO 奥山美由紀理事
- 9/19-20 猪俣、沖縄出張
- 9/26 岸本ヘネロサヤス子さん、仲地リカルドさんが沖縄に一時帰国/那覇空港で記者会見
- 9/27 仲地さん親族訪問/岸本さん名護市役所、名護小学校訪問
- 9/28 一時帰国団、沖縄観光
- 9/29 一時帰国団、県知事訪問、

平和祈念館、ひめゆりの塔訪問

9/30 一時帰国団フィリピンへ

10/3 来所: 元インターマリオ リコ氏

10/10 事務局会議

事務局だより

◆新宿区の住居表示変更に伴い PNLSC の住所が変わりました。

旧: 本塩町 7-7

新: 四ツ谷本塩町 4-15

事務所の場所、ビル名は変更なしです。

◆多くの方のご尽力で、今年も無事一時帰国を終えることができました。ご親族はじめ、身元探しにご協力下さった市史編纂室の方々、県庁、名護市、県議の皆様、支援者の皆様に改めて御礼申し上げます。

◆PNLSCへの寄付が寄附控除の対象になる「認定NPO法人」の本申請を、今年度決算確定後に行うべく準備中です。3千円(以上)の寄付を年間100人以上の方から継続的に頂戴することが条件です。今回も多くの方にご協力いただきましたが、引き続き、お力添え、お口添えをよろしくお願い致します。

ご支援に 感謝します

(敬称略、順不同(17.7.19-10.10))

《新入会》

個人正会員 関口恭史

日系人会員 マツモトエドガー、バラノン エメリンダ、アバロス コラソン、アルシド エミリー、アティン エリザベスこと上村ナツミ、カバニサス アルネル、カバニサス マリアエディタ、コルプス アイリーン、ファウステイノベン、ハマダ アイリーン、クレイドロシー、ロカノ アリソン、ロカノ フリエタ、マルセロ リッキー、タアオアン

ヒルダ、イシト フレッド、バヤニ モンテボン、バルラン イメルダ、オドニョ リチャード、ソニド マリバス

《会員更新》

個人正会員 飯島真理子

団体賛助会員 九州日本語学校、SOO

個人賛助会員 嶋田久夫、宮里強 先本賢一、馬場成之、伊藤達己 大野俊 木場紗綾

日系人会員 (姓、名の順に記載)

キアンコ ダーウィン、キアンコ ペルラ、キアンコ フリアノ、キアンコ プロタシオ Jr.、梁田ミランダ

《寄付》 小池満也、鏡久美子、小林律昭、小田切賢治、先本賢一、飯島真理子、村尾嘉則(四ツ谷鴻臚寺東京分院住職)、梁田ミランダ、前川佳遠理、奥山美由紀、佐藤愛子、本郷辰也、森岡正江、浦濱祐一、浦濱恭子、大久保真紀

◇入会・寄付のお願い◇

■正会員

(団体)	入会金	30,000 円
	年会費	24,000 円
(個人)	入会金	10,000 円
	年会費	12,000 円

■賛助会員

(団体)	入会金	10,000 円
	年会費	12,000 円
(個人)	入会金	1,000 円
	年会費	6,000 円

■学生会員

入会金	なし
年会費	3,000 円

■日系人会員

入会金	なし
年会費	3,000 円

【銀行口座】

・みずほ銀行

四谷支店 普通 1985293

・ゆうちょ銀行〇一九店

当座 00130-6-333599

【郵便振替】

00130-6-333599

※名義はいずれも「フィリピンニッケイジンリーガルサポートセンター」

発行: NPO 法人 フィリピン日系人リーガルサポートセンター
(Philippine Nikkei-jin Legal Support Center: 略称 PNLSC)

代表: 弁護士 河合弘之

事務局長: 猪俣典弘

〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町4番地15 新井ビル3F

TEL03-3355-8861

FAX03-3355-8862

E-mail info@pnlsc.com ホームページ <http://www.pnlsc.com>

